

郷土の芸術家作品展

郷土の芸術家4人の偉大さに感銘

町が主催する「郷土の芸術家作品展」が11月26日から28日までの期間、中央公民館で開かれました。この作品展は、郷土の生んだ芸術家を知ってもらおうと、今回初めて開かれたもので、会場には、町出身の恩田得寿ら古里にゆかりのある4人の作品63点を展示。飯

島栄一郎先生（郷土史家）の所蔵する作品を中心に、高橋淑子先生（日本画家・故高橋光輝画伯の妻）、個人収集家のご協力で出品された貴重な作品の数々に、来場した約400人は、郷土芸術家4人の偉大さに感銘していました。



郷土の芸術家の作品が並ぶ会場

恩田得寿

（明和町 日本画家）

明治16年明和町梅原に生まれ、幼少から絵を好み将来は、画家として身を立てる決心をし上京。野田九浦に師事し、刻苦勉勵の甲斐あって、その画筆が認められついに日展作品委託作家となり、その名声を博しつつあった。しかし、第2次世界大戦の勃発によりやむなく妻とともに羽生市川侯の寺院に疎開し、そこを画室として制作活動に精進した。（昭和35年逝去）

高橋光輝

（板倉町 日本画家）

大正2年板倉に生まれ、昭和8年上京し、池上秀敏に師事。翌年読画会展に出品し、以来同会展解散まで連続出品、14年川端画学校洋画科に入学。翌年文展初入選。17年応召。終戦後帰郷し、再び上京望月春江に師事。27年日本画院同人に推挙される。また、日展に出品を続ける。（昭和60年逝去）

小室翠雲

（館林市 日本画家・書家）

明治7年館林市呉服商後映画館経営の文学画家の長男として生まれ、大正8年第1回帝展審査員に選ばれる。昭和5年越前永平寺、大光明蔵正面上段に「老松に鷹」の壁画、襖絵を揮ごうす。9年戯曲「勤王佐幕田崎早雲父子」を発表。（昭和20年逝去）

亀田鵬齋

（千代田町 儒学者・書家）

宝暦2年10月4日千代田町出身の父の子として江戸神田に生まれ、幼名弥吉のち「翼」と名付けられた。父の勧めにより、「井上金峨」に学問を学び、やがてその才能を發揮して34歳で私塾「育英堂」開設。幕府の「寛政医学の禁」の頃は「異学の五鬼」とまで呼ばれるようになった。「亀田三先生（鵬齋、綾瀬、鷺谷）」の書画が有名。（文政9年（1826年逝去）

